

北辺寺の伝説をすく

金子塔と池辺寺縁起絵巻

「池辺寺を現代に伝えたもの」

池辺寺とは、熊本市西区池上町にあった山岳寺院です。奈良時代の創建と伝えられ、繁栄と荒廃、再興を繰り返しながら明治時代の初めまで存続していました。

この池辺寺を現在に伝えるものが2つあります。ひとつは金子塔に刻まれた碑文、もうひとつは池辺寺縁起絵巻です。

金子塔は西平山の山中にあり、今は倒壊防止のために覆屋で保護しています。池辺寺跡に併設する西平山公園にレプリカを展示しています。

池辺寺縁起絵巻は江戸時代に作成された絵巻物で、現在も大切に伝えられています。絵巻には味生地の悪龍を沈めるために池辺寺が建てられたこと、今も伝わる宝物、独鉢や鈴が空から落ちてきた話など池辺寺に関する不思議な7つの物語が描かれてています。



金子塔

二 味生池を見守る場所

「味生池を見守る場所」



堂床からの景色を見れば、味生池の大きさと、当時の人々がここに三重塔を作った気持ちが分かるかも…。

昔、肥後の国司として赴任してきた道君首名は農業用の水を貯めるために大きな池を作りました。これが味生池です。池辺寺縁起絵巻には味生池の龍の話が2つ描かれています。

この味生池を見下ろすことができる場所が堂床です。この場所に三重塔があつたと考えられています。味生池の龍をここから見下ろしていたのかもしれません。今も見晴らしがよく、当時の池がいかに大きかつたかを感じることができます。

三 国指定史跡池辺寺跡

「寺院跡と背後に並ぶ百基の石積み」



整備が完了した国指定史跡池辺寺跡

池辺寺が百塚にあったことがなぜ分かったのか?

それは金子塔に百塔が池辺寺の根本御座所と記されていたこと、地元で古くから「開墾してはいけない」と言い伝えられていたこと、発掘調査の結果、本当に整然と並ぶ10×10の石積み(百塔)跡があつたことなどから、ここが池辺寺の跡地であるとされました。百塔は発掘当時の実物を、本堂跡は実物を埋め戻してレプリカを展示しています。百塔の最上部からは緑の木々の間から熊本市内を眺めることができます。

この10×10の壮大な石積が何のために作られたのか?

蔓茶羅や菩薩を表現したもの、百塔巡礼の場など諸説ありますが、はつきりしたことはまだ分かっていません。



整備が完了した国指定史跡池辺寺跡

「池辺寺終焉の地」

金子塔と池辺寺縁起絵巻

「池辺寺を現代に伝えたもの」

池辺寺とは、熊本市西区池上町にあった山岳寺院です。奈良時代の創建と伝えられ、繁栄と荒廃、再興を繰り返しながら明治時代の初めまで存続していました。

この池辺寺を現在に伝えるものが2つあります。ひとつは金子塔に刻まれた碑文、もうひとつは池辺寺縁起絵巻です。

金子塔は西平山の山中にあり、今は倒壊防止のために覆屋で保護されています。池辺寺跡に併設する西平山公園にレプリカを展示しています。

池辺寺縁起絵巻は江戸時代に作成された絵巻物で、現在も大切に伝えられています。絵巻には味生地の悪龍を沈めるために池辺寺が建てられたこと、今も伝わる宝物、独鉢や鈴が空から落ちてきた話など池辺寺に関する不思議な7つの物語が描かれています。



金子塔

二 味生池を見守る場所

「味生池を見守る場所」



堂床からの景色を見れば、味生池の大きさと、当時の人々がここに三重塔を作った気持ちが分かるかも…。

昔、肥後の国司として赴任してきた道君首名は農業用の水を貯めるために大きな池を作りました。これが味生池です。池辺寺縁起絵巻には味生池の龍の話が2つ描かれています。

この味生池を見下ろすことができる場所が堂床です。この場所に三重塔があつたと考えられています。味生池の龍をここから見下ろしていたのかもしれません。今も見晴らしがよく、当時の池がいかに大きかつたかを感じることができます。

三 国指定史跡池辺寺跡

「寺院跡と背後に並ぶ百基の石積み」



整備が完了した国指定史跡池辺寺跡

池辺寺が百塚にあったことがなぜ分かったのか?

それは金子塔に百塔が池辺寺の根本御座所と記されていたこと、地元で古くから「開墾してはいけない」と言い伝えられていたこと、発掘調査の結果、本当に整然と並ぶ10×10の石積み(百塔)跡があつたことなどから、ここが池辺寺の跡地であるとされました。百塔は発掘当時の実物を、本堂跡は実物を埋め戻してレプリカを展示しています。百塔の最上部からは緑の木々の間から熊本市内を眺めることができます。

この10×10の壮大な石積が何のために作られたのか?

蔓茶羅や菩薩を表現したもの、百塔巡礼の場など諸説ありますが、はつきりしたことはまだ分かっていません。



整備が完了した国指定史跡池辺寺跡

「池辺寺終焉の地」

金子塔と池辺寺縁起絵巻

「池辺寺を現代に伝えたもの」

池辺寺とは、熊本市西区池上町にあった山岳寺院です。奈良時代の創建と伝えられ、繁栄と荒廃、再興を繰り返しながら明治時代の初めまで存続していました。

この池辺寺を現在に伝えるものが2つあります。ひとつは金子塔に刻まれた碑文、もうひとつは池辺寺縁起絵巻です。

金子塔は西平山の山中にあり、今は倒壊防止のために覆屋で保護されています。池辺寺跡に併設する西平山公園にレプリカを展示しています。

池辺寺縁起絵巻は江戸時代に作成された絵巻物で、現在も大切に伝えられています。絵巻には味生地の悪龍を沈めるために池辺寺が建てられたこと、今も伝わる宝物、独鉢や鈴が空から落ちてきた話など池辺寺に関する不思議な7つの物語が描かれています。



金子塔

二 味生池を見守る場所

「味生池を見守る場所」



堂床からの景色を見れば、味生池の大きさと、当時の人々がここに三重塔を作った気持ちが分かるかも…。

昔、肥後の国司として赴任してきた道君首名は農業用の水を貯めるために大きな池を作りました。これが味生池です。池辺寺縁起絵巻には味生池の龍の話が2つ描かれています。

この味生池を見下ろすことができる場所が堂床です。この場所に三重塔があつたと考えられています。味生池の龍をここから見下ろしていたのかもしれません。今も見晴らしがよく、当時の池がいかに大きかつたかを感じることができます。

三 国指定史跡池辺寺跡

「寺院跡と背後に並ぶ百基の石積み」



整備が完了した国指定史跡池辺寺跡

池辺寺が百塚にあったことがなぜ分かったのか?

それは金子塔に百塔が池辺寺の根本御座所と記されていたこと、地元で古くから「開墾してはいけない」と言い伝えられていたこと、発掘調査の結果、本当に整然と並ぶ10×10の石積み(百塔)跡があつたことなどから、ここが池辺寺の跡地であるとされました。百塔は発掘当時の実物を、本堂跡は実物を埋め戻してレプリカを展示しています。百塔の最上部からは緑の木々の間から熊本市内を眺めることができます。

この10×10の壮大な石積が何のために作られたのか?

蔓茶羅や菩薩を表現したもの、百塔巡礼の場など諸説ありますが、はつきりしたことはまだ分かっていません。



整備が完了した国指定史跡池辺寺跡

「池辺寺終焉の地」

金子塔と池辺寺縁起絵巻

「池辺寺を現代に伝えたもの」

池辺寺とは、熊本市西区池上町にあった山岳寺院です。奈良時代の創建と伝えられ、繁栄と荒廃、再興を繰り返しながら明治時代の初めまで存続していました。

この池辺寺を現在に伝えるものが2つあります。ひとつは金子塔に刻まれた碑文、もうひとつは池辺寺縁起絵巻です。

金子塔は西平山の山中にあり、今は倒壊防止のために覆屋で保護されています。池辺寺跡に併設する西平山公園にレプリカを展示しています。

池辺寺縁起絵巻は江戸時代に作成された絵巻物で、現在も大切に伝えられています。絵巻には味生地の悪龍を沈めるために池辺寺が建てられたこと、今も伝わる宝物、独鉢や鈴が空から落ちてきた話など池辺寺に関する不思議な7つの物語が描かれています。



金子塔

二 味生池を見守る場所

「味生池を見守る場所」



堂床からの景色を見れば、味生池の大きさと、当時の人々がここに三重塔を作った気持ちが分かるかも…。

昔、肥後の国司として赴任してきた道君首名は農業用の水を貯めるために大きな池を作りました。これが味生池です。池辺寺縁起絵巻には味生池の龍の話が2つ描かれています。

この味生池を見下ろすことができる場所が堂床です。この場所に三重塔があつたと考えられています。味生池の龍をここから見下ろしていたのかもしれません。今も見晴らしがよく、当時の池がいかに大きかつたかを感じることができます。

三 国指定史跡池辺寺跡

「寺院跡と背後に並ぶ百基の石積み」



整備が完了した国指定史跡池辺寺跡

池辺寺が百塚にあったことがなぜ分かったのか?

それは金子塔に百塔が池辺寺の根本御座所と記されていたこと、地元で古くから「開墾してはいけない」と言い伝えられていたこと、発掘調査の結果、本当に整然と並ぶ10×10の石積み(百塔)跡があつたことなどから、ここが池辺寺の跡地であるとされました。百塔は発掘当時の実物を、本堂跡は実物を埋め戻してレプリカを展示しています。百塔の最上部からは緑の木々の間から熊本市内を眺めることができます。

この10×10の壮大な石積が何のために作られたのか?

蔓茶羅や菩薩を表現したもの、百塔巡礼の場など諸説ありますが、はつきりしたことはまだ分かっていません。



整備が完了した国指定史跡池辺寺跡

「池辺寺終焉の地」

金子塔と池辺寺縁起絵巻

「池辺寺を現代に伝えたもの」

池辺寺とは、熊本市西区池上町にあった山岳寺院です。奈良時代の創建と伝えられ、繁栄と荒廃、再興を繰り返しながら明治時代の初めまで存続していました。

この池辺寺を現在に伝えるものが2つあります。ひとつは金子塔に刻まれた碑文、もうひとつは池辺寺縁起絵巻です。

金子塔は西平山の山中にあり、今は倒壊防止のために覆屋で保護されています。池辺寺跡に併設する西平山公園にレプリカを展示しています。

池辺寺縁起絵巻は江戸時代に作成された絵巻物で、現在も大切に伝えられています。絵巻には味生地の悪龍を沈めるために池辺寺が建てられたこと、今も伝わる宝物、独鉢や鈴が空から落ちてきた話など池辺寺に関する不思議な7つの物語が描かれています。



金子塔

二 味生池を見守る場所

「味生池を見守る場所」



堂床からの景色を見れば、味生池の大きさと、当時の人々がここに三重塔を作った気持ちが分かるかも…。

昔、肥後の国司として赴任してきた道君首名は農業用の水を貯めるために大きな池を作りました。これが味生池です。池辺寺縁起絵巻には味生池の龍の話が2つ描かれています。

この味生池を見下ろすことができる場所が堂床です。この場所に三重塔があつたと考えられています。味生池の龍をここから見下ろしていたのかもしれません。今も見晴らしがよく、当時の池がいかに大きかつたかを感じることができます。

三 国